

## 脳死判定用チェックシート（ECI 測定用）

### 患者ベット周辺

- 人工呼吸器の接地確認
- バイタルサインモニターの接地確認
- 輸液ポンプの接地確認
- 脳波計の接地確認
- 電動ベットの接地確認
- 各装置及びベットの接地が一点アースであることの確認
- 上記装置類が電極入力箱及び脳波電極コード類から 70 cm以上離れていることの確認
- 未使用機器の電源コンセントは取り外すか、70 cm以上離れていることの確認
- 電気毛布・ベットの電源コンセントを取り外し済みを確認
- 人工呼吸器と入力箱の配置は、ベットを挟み反対側に設置
- 輸液ポンプは、頭部から離し足側に設置
- カーテンは束ねる
- 部屋の明るさ（適度な明るさ、波形が見える程度）
- 部屋の室温（      °C） 湿度（      %）

### 患者ベット内

- 電極入力箱は頭部より 30 cm以内に設置
- 電極入力箱は人工呼吸器と対角位置に設置
- 頭部の下に頭部用シールドマットを敷く
- 頭部用シールドマットを入力箱の X3・X4（心電図）と一緒に緑の線に留めて接続
- シールド電極使用を確認
- 電極線は束ねてあることを確認
- 開口面積は最小であることを確認
- 電極類の接続距離は最短であることを確認

### 生体装着部

- 濡れタオル・消毒用アルコールにて頭部の汚れ除去（看護師依頼）
- スキンピュア・消毒用アルコールにて頭部の汚れ除去（技師）
- 電極間抵抗を 10K $\Omega$  以下、電極インピーダンスを 2K $\Omega$  以下の確認
- Z 電極装着を確認
- 電極間距離 10 cm以上（最短でも 7 cm以上）としチェックシートに記入
- 脳波測定電極は全て束ね、入力箱に短く丸めて接続（ガーゼなどで縛る）
- 頭部外モニター（筋電図）電極は X1・X2 に接続し、電極は束ねて体側に沿わせ、脳波測定電極とも束ね入力箱に接続
- 心電図モニター電極は X3・X4 に接続し両肩に接続する  
脳波測定用電極は束ねて入力箱に接続
- 外傷などの確認と電極の位置（多少のずれは仕方がないので図で書く）
- 脳死判定用のモニタージュで電極装着の確認

## 患者状態の変化

- 患者のバイタルサインの変化はないか

## 設定

- 検査用モニタージュは、脳死判定用に設定(CVIII)
- SENS・TC・フィルターの選択・紙送り速度の設定確認

## 測定

- インピーダンスチェックの実行 2K $\Omega$ 以下の確認

FPz	Fp1	Fp2	A1	T3	C3	Cz	C4	T4	A2	O1	O2

### ◆以後、フローチャートに沿って測定◆

- 通常感度 (10 $\mu$ V/mm) で低域遮断フィルターの時定数 0.3 高域遮断フィルターOFF の校正曲線の描出
- 通常感度 高域遮断フィルター (OFF 60 30)
- 通常感度 ノッチフィルター (ON OFF)
- 通常感度 単極・双極導出の確認 (呼名・痛み・光刺激の確認) 10 分間以上記録
- 通常感度 (10 $\mu$ V/mm) で低域遮断フィルターの時定数 0.3 の校正曲線の描出 (高域遮断フィルター・ノッチフィルターを変更した場合は、その条件で校正曲線)
  
- 高感度 (2 $\mu$ V/mm) で低域遮断フィルターの時定数 0.3 高域遮断フィルターOFF の校正曲線の描出
- 高感度 高域遮断フィルター (OFF 60 30)
- 高感度 ノッチフィルター (ON OFF)
- 高感度 単極・双極導出の確認 (呼名・痛み・光刺激の確認) 30 分間以上記録
- 高感度 (2 $\mu$ V/mm) で低域遮断フィルターの時定数 0.3 の校正曲線の描出 (高域遮断フィルター・ノッチフィルターを変更した場合は、その条件で校正曲線)
- 全体で 30 分以上の記録の確認
- 刺激が 5~6 回以上あることの確認
  - ① 呼名 : Dr が患者の名前を耳元で呼ぶ
  - ② 痛覚 : Dr がピンで顔面をつつく、または左右の眼窩上縁を強く圧迫
  - ③ 光刺激

## 保存

- データの保存・再生
- アーチファクトの確認
- 第 1 回目と第 2 回目では、変化の確認